

# 日本語・イタリア語発話動詞比較対照研究

古浦敏生

## §1 はじめに

### (1)日本語の発話動詞

日本語の発話動詞として「言う」「話す<sup>1)</sup>」「語る」などがある。柴田(1988)によれば<sup>2)</sup>、「言う」は「人間行動の一つとしての言語行動」であり、「話す」は「特定の目的を持った社会的な言語行動」とであるとされている。また、徳川 & 宮島(1975)によれば<sup>3)</sup>、「言う」は内容に関係なく、長い話でも、(例 a)のような短い言葉でも「言う」の対象になる。「話す」「語る」は或るまとまった内容に関して用いられるので、(例 b)(例 c)は非文となる」とされている。

(例 a) A氏は「はい」と言った。

(例 b) \*A氏は「はい」と話した。

(例 c) \*A氏は「はい」と語った。

(例 d) A氏は日記の中で～と言っている。

また、徳川 & 宮島(1975)に従えば、「言う」は比較的広くて書き言葉でも使え、(例 d)でも不自然ではない。なお、「言う」には「Aという人」のように形式化した用法が多い。「語る」は文章語である。

### (2)イタリア語の発話動詞

イタリア語の発話動詞として「dire」「parlare」「raccontare」などが存在する。池田ほか(1999)によれば<sup>4)</sup>、「dire」の訳として、第1義に「言う」が挙げられているが、第6義には「話す」「語る」も登場する。「parlare」に関しては、第1義に「話す」が、第6義に「語る」が、それぞれ登場する。「raccontare」に関しては、第1義が「語る」であって、「言う」「話す」は登場しない。

### (3)本稿のテーマ

以上のような状況を勘案すると、「言う」は「dire」に、「話す」は「parlare」に、「語る」は「raccontare」に、それぞれ概略対応するように思われる。しかし、日本文学作品の原文とそのイタリア語訳とを比較対照してみると、意外に複雑な状況を呈しており、近年、日伊両言語比較対照を研究テーマとしている筆者には非常に興味深い問題である 5)。

本稿は三島由紀夫『金閣寺』原文 6) とそのイタリア語訳 7) を資料として、そこに現れる「言う」「話す」「語る」と「dire」「parlare」「raccontare」などを比較対照したものである。

## 52 用例

以下、「言う」「話す」「語る」と「dire」「parlare」「raccontare」とがそれぞれ対応を示している用例を順次掲載していく。また、【 】内に日本語原文と伊語訳の出現ページ数を記しておく。なお、紙面の都合上、用例の多い (1) (2) (3) については 8 例のみ提示する。

### (1)「言う」と「dire」との対応例 (計 81 例)

(例 1-1) 海兵の生徒はその短剣でこっそり鉛筆を削るなんぞと言われていた。 *Si diceva* che gli allievi dell'accademia navale se ne servissero di nascosto per far la punta alle matite. 【日 p.10 伊 p.11】

(例 1-2) 住職は来客中なので、二三十分待つてほしいと言われた。 *L'abate, impegnato con un ospite, ci fece dire d'attendere.* 【日 p.25 伊 p.26】

(例 1-3) 「この次来るときは、又変わってるんやろな」と父はうそ寒い面持で言った。 “*La prossima volta che verrò,*” *disse* contrariato, “*magari avranno cambiato anche questi.*” 【日 p.25 伊 p.26】

(例 1-4) 地上でもっとも美しいものは金閣だと、お父さんが言われたのは本当です。 “*Avevate ragione a dirmi che il Padiglione d'oro è la cosa piú bella del mondo.*” 【日 p.30 伊 p.32】

(例 1-5) (少年は) 私を見て、「何だ、君か」と言った。 *Ma come mi vide,*

disse semplicemente : “Ah, sei tu?” 【日 p.38 伊 p.39】

(例 1-6) これだけ言いた私の顔には、夥しい汗が流れていた。Dopo aver detto quelle poche parole, mi sentii il viso tutto madido di sudore.【日 p.44 伊 p.44】

(例 1-7) 鶴川はえもいわれぬやさしい微笑をうかべた。そしてこう言った。「だって僕、そんなことはちっとも気にならない性質なんだよ」  
Con un sorriso indicibilmente dolce, egli mi disse: “Be”, io non bado a queste cose.” 【日 p.45 伊 p.45】

(例 1-8) 「ええもんやな」と私はまた微笑して言った。“Riposante, eh?”  
dissi sorridendo. 【日 p.50 伊 p.50】

(2) 「言う」と「parlare」との対応例 (計 19 例)

(例 2-1) 「闇米ではないさかいにな …。」(父は) あたりにきこえるように  
そう言って…“Non è riso del mercato nero…”Aveva parlato in modo  
che tutti l’udissero. 【日 p.24 伊 p.26】

(例 2-2) 「何や、わからへん。」…言ってから, 私は人に疑問を起さ  
せるのがどうして好きなのかと反省した。“Non so che dirti!”  
Così parlando, mi meravigliavo io stesso del godimento che provavo a  
suscitar dubbi. 【日 p.40 伊 p.41】

(例 2-3) (泥酔している米兵は) それからジープの中をのぞいて、「出て  
来い」という意味のことを言った。Poi cacciò la testa nella jeep e  
parlò come per invitare qualcuno ad uscire. 【日 p.74 伊 p.75】

(例 2-4) 言ううちに私の胸には喜びが兆し、喜びは次第に強固な根を  
張った。Mentre parlavo, nel mio cuore sentivo la gioia germogliare ed  
estendere e irrobustire le sue radici. 【日 p.84 伊 p.84】

(例 2-5) 彼は、箸の先を舐めながら、更に一気に言った。Ripulí con le  
labbra le punte dei bastoncini, e di nuovo mi parlò, senza tante storie.【日  
p.92 伊 p.92】

(例 2-6) この疑問に答えるように、二三杯呑んだ柏木は言いだした。  
Quasi in risposta ai miei dubbi, dopo qualche bicchiere di whisky,

Kashiwagi prese a parlare. 【日 p.119 伊 p.117】

(例 2-7) 柏木はかたわらに当の令嬢がまるでいないかのように平気で言つた。ma Kashiwagi ne parlava tranquillamente come se lei non ci fosse. 【日 p.119 伊 p.118】

(例 2-8) しかし金がない。思い切ってそれを柏木に言うと Ma non avevo soldi da spendere. Gliene parlai francamente. 【日 p.139 伊 p.136】

(3) 「話す」と「parlare」との対応例 (計 10 例)

(例 3-1) 母はすでに来て、老師の部屋で話をしていた。Mia madre era già arrivata e stava parlando con il venerabile maestro. 【日 p.58 伊 p.59】

(例 3-2) どうしても鶴川とばかり話すようになる。Non parlavo che con lui. 【日 p.90 伊 p.90】

(例 3-3) 君が俺に何故話しかけてくるか、ちゃんとわかっているんだぞ。Guarda che ho capito benissimo perché vuoi parlarmi! 【日 p.92 伊 p.92】

(例 3-4) さて、こんな話をしつつも、柏木の手は微妙に動いて Mentre Kashiwagi parlava, le sue mani si muovevano delicatamente. 【日 p.143 伊 p.141】

(例 3-5) 柏木は、例の光クラブの学生社長が闇金融容疑で検挙された ... という話をした。Mi parlò del nostro collega presidente dello Hikari Club, che era stato arrestato per sospetto contrabbando di valuta... 【日 p.175 伊 p.170】

(例 3-6) どこかの公共団体の年とった役員が隣の座席で大声で話している。Accanto a me sedeva un anziano impiegato di qualche pubblica associazione, che parlava ad alta voce. 【日 p.181 伊 p.176】

(例 3-7) 帰りぎわに、柏木が ... 三宮や神戸港の話をし... Al momento d'andarsene, Kashiwagi mi parlò di Sannomiya e del porto di Kobe. 【日 p.213-214 伊 p.209】

(例 3-8) 老師のかえりを待つあいだ私と話したいという和尚の意向を伝えて、朋輩が呼びに来たとき、私はためらった。Quando un collega venne a dirmi che in attesa dell'abate l'ospite voleva parlare con me,

esitai. 【日 p.240 伊 p.233】

(4) 「話す」と「raccontare」との対応例 (計4例)

- (例 4-1) 鶴川は、秘密を守る誓いを私にさせて、私の顔色を伺い伺い、話し出した。Tsurukawa, scrutando attentamente nei miei occhi, mi fece promettere di mantenere il segreto, e poi mi raccontò. 【日 p.81-82 伊 p.81】
- (例 4-2) 柏木は私の返事も待たずに話し出した。E senza neppure aspettare la mia risposta, cominció a raccontare. 【日 p.93 伊 p.93】
- (例 4-3) (生花のお師匠さんが) このあいだ、悲しいロマンスを話してくれはったんやわ。l'altro giorno mi ha raccontato la sua triste storia. 【日 p.114 伊 p.113】
- (例 4-4) 女が名古屋から流れてきたことなどを話しているのを、おぼるげに聴きながら ma io udivo solo vagamente la ragazza che mi raccontava di come fosse giunta in quel luogo da Nagoya. 【日 p.225 伊 p.218】

(5) 「語る」と「dire」との対応例 (計3例)

- (例 5-1) 有為子は(彼に)何か語りかけた。la ragazza gli disse qualcosa. 【日 p.19 伊 p.20】
- (例 5-2) 物質というものが、いかにわれわれから遠くに存在するかということを、死顔ほど如実に語ってくれるものはなかった。Non v'è nulla che ci dica, al pari del viso d' un morto, quanto sia da noi lontana la materia. 【日 p.33 伊 p.34】
- (例 5-3) 何故(あなたは)美しくあらねばならないのかを語ってくれ。Dimmi perché la bellezza ha con te un rapporto di necessità. 【日 p.36 伊 p.37】

(6) 「語る」と「parlare」との対応例 (計6例)

- (例 6-1) 幼時から父は、私によく、金閣のことを語った。Mio padre mi

aveva parlato spesso del Padiglione d'oro. 【日 p.5 伊 p.7】

- (例 6-2) 父は決して現実の金閣が金色にかがやいているなどと語らなかつた筈だが Egli non mi parlava mai del fatto che la costruzione fosse tutta rilucente d'oro. 【日 p.5 伊 p.7-8】
- (例 6-3) 彼 (=中学の先輩) は、つらい規律づくめの生活を語った。Parlò della sua nuova vita, faticosa e militaresca. 【日 p.8 伊 p.10】
- (例 6-4) (私は彼女に) 息せき切って、吃りながら語った。Le parlai col respiro mozzo, balbettando. 【日 p.149 伊 p.146】
- (例 6-5) 老師はすぐ目を外らし、手焙りの上で手を揉み合わせながら語った。Ma distolse subito lo sguardo, e sfregandosi le mani sul braciere cominciò a parlare. 【日 p.173 伊 p.168】
- (例 6-6) 一旦こうと決めた心が、さまざまに動揺して、行きつ戻りつする経過を私が語らないのを、奇異に思ってはならない。Non deve sembrare strano che io non parli di titubanze o incertezza a proposito del mio progetto. 【日 p.197 伊 p.193】

(7) 「語る」と「raccontare」との対応例 (計5例)

- (例 7-1) 未来へ向っても過去へ向っても、何一つ語りかけない顔 quel volto... che nulla avrebbe mai potuto raccontare di quanto apparteneva al passato e di quanto avrebbe potuto appartenere al futuro. 【日 p.16 伊 p.17】
- (例 7-2) 体を拭きながら、俺は鹿爪らしく語りはじめた。mentre mi asciugavo le raccontai con finta modestia... 【日 p.99 伊 p.99】
- (例 7-3) 突然娘は、私にむかってこんなことを語りだした。D'un tratto si volse verso di me e cominciò a raccontarmi una strana storia. 【日 p.114 伊 p.113】
- (例 7-4) その宵、私が柏木とどんなことを語り合ったか、よく憶えていない。Non ricordo bene cosa ci raccontammo quella sera. 【日 p.136 伊 p.134】
- (例 7-5) そこで私は (あの夜のことについて彼女に) 語った。Le raccontai

### §3 用例の分析 1

まず、用例の使用頻度を発話動詞ごとにまとめたのが第1表である。

第1表

発話動詞	dire	parlare	raccontare	計
言う	81	19	0	100
話す	0	10	4	14
語る	3	6	5	14
計	84	35	9	128

第1表によると、「言う」に関して言えば、「dire」で訳されている場合が群を抜いて多く81例、次いで「parlare」で訳されている場合が19例となっている。「話す」に関して言えば、「parlare」で訳されている場合が10例、「raccontare」で訳されている場合が4例となっている。「語る」に関して言えば、「dire」で訳されている場合が3例、「parlare」で訳されている場合が6例、「raccontare」で訳されている場合が5例となっている」などのことが分かる。

第1図

言う	dire	parlare
語る		
話す	raccontare	

第1表の内容を視覚的に明示するために、國廣哲彌(1981)<sup>8)</sup>に掲載されている図を参考にして、第1図を作成した。

第1図によれば、「言う」は「dire」と「parlare」に、「語る」は「dire」と「raccontare」と「parlare」に、「話す」は「raccontare」と「parlare」に、それぞれ対応してい

ることが分かる。

#### §4 用例の分析 2

第1図の複雑な対応を裏付けるために、「論理に一貫性を欠く対応」、或は、「非対応」を呈している用例を検討してみよう。

(1) 日本語原文では同じ場面の発話内で「語る」が2回用いられているのにイタリア語訳では「raccontare」と「parlare」が用いられている場合

(例8-1) そこで私は(あの夜のことについて)語った。息せき切って、吃りながら語った。Le raccontai di quella sera. Le parlai col respiro mozzo, balbettando. 【日 p.149 伊 p.146】

ここでは、同じ発話であるはずの「語る」という行為が、一方では「raccontare」に、他方では「parlare」に対応している。

(2) 日本語原文では同じ場面の発話内で「言う」が2回用いられているのにイタリア語訳では「dire」と「parlare」に使い分けられている場合

(例8-2) これは本来、当人の前で言い出すべきことではなかったが、柏木はかたわらに当の令嬢がまるでいないかのように平気で言った。Era una cosa da non dirsi in presenza dell'interessata; ma Kashiwagi ne parlava tranquillamente come se lei non ci fosse. 【日 p.119 伊 p.118】

ここでは、同じ発話であるはずの「言う」という行為が、一方では「dire」に、他方では「parlare」に対応している。

(3) 日本語原文では同じ場面の発話内で1種の発話動詞「言う」が用いられているのに、イタリア語訳では2種の発話動詞「dire」と「parlare」が用いられている場合

(例8-3) 禅海和尚は何ものにも囚われない。初対面の私を見るなり、父によく似ている。よく成人した。お父さんが亡くなったのはまことに惜しい。などと、つづけざまに朗らかに言ったのである。Non



era comunque uomo da lasciarsi deprimere. Parlò, vivace e disinvolto, dicendomi che rassomigliavo a mio padre, che ero ormai un uomo, che era veramente spiacente per il mio lutto ed altro. 【日 p.240 伊 p.233】

ここでは、「言う」が「dire」にも「parlare」にも対応しているものと思われる。

(4) 日本語原文では同じ場面の発話内で2種の発話動詞「話す」と「語る」が用いられているのに、イタリア語訳では1種の発話動詞「parlare」にまとめられている場合

(例 8-4) 帰りぎわに、柏木が私のまだ見ぬ三ノ宮や神戸港の話をし、夏の港を出てゆく巨船のことなど語った。Al momento d'andarsene, Kashiwagi mi parlò di Sannomiya e del porto di Kobe, che ancora non conoscevo, e delle gigantesche navi che salpavano d'estate. 【日 p.213-214 伊 p.209】

ここでは、「話す」も「語る」も、ともに「parlare」に対応しているものと思われる。

(5) 日本語原文における慣用句「言わず語らず」に含まれている2種の発話動詞「言う」と「語る」がイタリア語訳では1種の発話動詞「parlare」にまとめられている場合

(例 8-5) 柏木が美に索めているものは、確実に慰藉ではなかった！言わず語らずのうちに、私にはそれがわかった。Ciò che Kashiwagi ricercava nella bellezza, non era certo una consolazione! Lo capii senza bisogno di parlarne, senza farne il minimo cenno. 【日 p.138 伊 p.136】

ここでも、「言う」と「語る」が、ともに「parlare」に対応しているものと思われる。

## §5 まとめ

日本語の発話動詞からイタリア語の発話動詞を見た場合、「言う」は「dire」と「parlare」に、「話す」は「parlare」と「raccontare」に、「語る」は「dire」と「parlare」と「raccontare」に、それぞれ対応すると思われる【第1図・(例 8-1)・(例

8-2)・(例 8-3)を参照】。

逆に、イタリア語の発話動詞から日本語の発話動詞を見た場合、「dire」は「言う」と「語る」に、「parlare」は「言う」と「話す」と「語る」に、「raccontare」は「話す」と「語る」に、それぞれ対応すると思われる【第1図・(例 8-4)・(例 8-5)を参照】。

なお、今後の課題として、もっと多くの資料を駆使して、今回取り上げなかった発話動詞(たとえば、「しゃべる」「述べる」,「chiacchierare」など)との関係も追究すべきであろうと考える。また、英語の say, speak, tell, ドイツ語の sagen, sprechen, erzählen, フランス語の dire, parler, raconter などとの比較対照にも興味をそそられる。

## 注

- 1) 本稿では「話をする」は「話す」の用例として扱うこととする。
- 2) 柴田武『語彙論の方法』,三省堂, 1988, pp.12-13.
- 3) 徳川宗賢・宮島達夫編『類義語辞典』, 東京堂出版, 1975, p.33.
- 4) 池田廉ほか編『伊和中辞典』第2版, 小学館, 1999.
- 5) 古浦敏生『日伊対照言語学研究』(『広島大学大学院文学研究科論集』第61巻, 特輯号2)2001, pp.1-73.
- 6) 三島由紀夫『金閣寺』25刷, 新潮文庫, 1971.
- 7) Yukio Mishima : Il padiglione d'oro, traduzione dal giapponese di Mario Teti, Feltrinelli, 1962.
- 8) 國廣哲彌「語彙の構造の比較」(『日英語比較講座, 第3巻, 意味と語彙』大修館, 1981.)

## 付記

原野昇先生がお元気に定年ご退職を迎えられたことを寿ぎ、この拙論を謹呈したいと思います。先生は私が所属していた広島大学文学部言語学教室のご出身であり、フランス語学文学教室の専任教授になられてから後も、古巣の言語

学教室所属の学生・院生・卒業生に対して何かにつけ暖かくご指導くださいました。また、私自身も在職中いろいろ大変お世話になりました。ここで改めて厚くお礼申し上げたいと存じます。どうもありがとうございました。

## Etude contrastive des verbes de parole en japonais et en italien

Toshio KOURA

L'objet de cet article est une étude contrastive des verbes de parole en japonais et en italien. D'une manière générale, les verbes japonais « iu », « hanasu » et « kataru » sont respectivement mis en correspondance avec les verbes italiens « dire », « parlare » et « raccontare ».

En fait, la réalité n'est pas aussi simple.

Une analyse statistique d'emplois de ces verbes dans l'Œuvre de Mishima Yukio, « Le Pavillon d'Or » et dans sa traduction italienne, nous a amené aux conclusions suivantes :

- (1) « iu » correspond bien à « dire », mais aussi à « parlare »,
- (2) « hanasu » correspond à la fois à « parlare » et à « raccontare »,
- (3) « kataru », enfin, recouvre les trois verbes italiens « raccontare », « dire » et « parlare ».